予　算　要　求　資　料

令和３年度当初予算　　支出科目　款：商工費　項：商工費　目：工鉱業振興費

事業名　国際陶磁器フェスティバル美濃負担金

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

商工労働部 地域産業課 地場産業振興係 電話番号：058-272-1111（内 3094 ）
E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

１　事業費　　45,000 千円（前年度予算額：45,000 千円）

＜財源内訳＞

区　分	事業費	財源内訳							
		国　庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県　債	一　般 財　源
前年度	45,000	0	0	0	0	0	0	0	45,000
要求額	45,000	0	0	0	0	0	0	0	45,000
決定額	45,000	0	0	0	0	0	0	0	45,000

２　要求内容

（１）要求の趣旨（現状と課題）

・陶磁器産業は、日本人のライフスタイル・価値観の変化や安価な外国製品の流入など、市場環境は極めて難しい状況下にあり、陶磁器文化、産業振興に寄与する施策が必要とされている。

・国際陶磁器フェスティバルは地元４市（多治見市、瑞浪市、土岐市、可児市）が中心となり３年に１度開催している、陶産地美濃の最大のイベントであり、「国際陶磁器展美濃」、「産業・地域・文化振興事業」の２つの事業を柱に開催する。

・そのため、本イベントを主催する「国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会」に参画し、開催経費の一部（負担金）を支払うことにより、美濃焼の関連企業等の支援を行う。

・令和２年度が当初開催年であったが、新型コロナの影響により令和３年度へ１年延期となった。これにより、令和２年度は延期期間中の対応のみの予算に減額補正しており、令和３年度は改めて開催に必要な負担金を要求する。

（２）事業内容

＜国際陶磁器フェスティバル美濃‘２１の概要＞

・会　期　令和３年９月 17 日（金）～10 月 17 日（日）　31 日間

・主会場　セラミックパークＭＩＮＯ

・特　徴　過去 11 回開催しており、今回で 12 回目。

※新型コロナの影響により、開催を１年延期し、名称の一部を変更。

過去 11 回の実績を礎に目的を達するため新たな展開も積極的に行う。

国際陶磁器展美濃はデザイン部門を復活し、デザイン部門の中に「工業製品」「個人作品」の２分野を設けて実施する。陶磁器展をテーマとした国際交流の場となるコンペティションを目指し、他のコンペティション事務局との連携、国際都市交流を実施する。

産業地域振興イベントについては、前回評価を踏まえた事業選定を進めるとともに、イベント開催前年度から計画的な準備を進めることにより、世界最高の陶磁器イベントにふさわしい事業とする。

（３）県負担・補助率の考え方

・第１回(1986 年)以来県及び地元３市等が開催経費の一部を応分負担。

・県が 1/3、地元が 2/3 の負担をすることを原則としている。

	第 10 回(H26)	第 11 回(H29)	第 12 回（R2→R3）
県	45,000 千円	45,000 千円	57,709 千円 （うち R1:7,000 千円、R2:5,709 千円）
地元４市	104,500 千円	104,500 千円	130,291 千円
一般財源	85,000 千円	85,000 千円	110,791 千円
広域行政	15,000 千円	15,000 千円	15,000 千円
商 工 会	4,500 千円	4,500 千円	4,500 千円
合計	149,500 千円	149,500 千円	188,000 千円

※第 10 回、第 11 回は決算、第 12 回は予算（案）

※県は第３回から第９回まで 50,000 千円の負担金を拠出

※第９回は県の「緊急財政再建期間」にあたり、以降、負担割合が崩れている（地元負担が過多）

※第 12 回は可児市から新たに 5,644 千円の負担金を拠出

３　事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	45,000	実行委員会負担金
合計	45,000	

決定額の考え方

４　参考事項

（１）各種計画での位置づけ

・長期構想

Ⅱ－１　モノをつくって、地域外からお金を稼ぐ地域をつくる

・県産品のブランド力向上を支援する

・県産品の市場を拡大する

（２）国・他県の状況

・他に同様のイベントを実施している例は見られない。

（３）後年度の財政負担

・地元４市が市をまたいで協力して実施するイベントであり、今後も同様の支援を行う。

（４）事業主体及びその妥当性

・地元４市の主力産業である陶磁器産業を支援するため、地元が中心となって実行委員会を組織して行っており、また、地元が県の倍以上の負担金を拠出したうえで民間の助成金等の活用も行われており、妥当であるといえる。

事　業　評　価　調　書（県単独補助金除く）

□	新規要求事業
■	継続要求事業

1　事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「美濃焼産業振興」「陶磁器文化振興」「地域振興」を目的に、「国際陶磁器展美濃」と「産業・地域・文化振興イベント」を開催し、ふるさと岐阜県の資源を活用した活力づくりを目指します。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目　標	達成率
来場者数	（H　）	172,056 （H23） ※38日間	184,874 （H26） ※38日間	148,515 （H29） ※38日間	200,000 （R3）	74.3%

○指標を設定することができない場合の理由

（前回の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

〈平成２９年度実績〉

○会　　期：９月１５日（金）～１０月２２日（日）　３８日間

○開催場所：セラミックパークＭＩＮＯ（多治見市東町）

○主　　催：国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

（多治見市、瑞浪市、土岐市、地元商工会議所・商工会、陶磁器関連団体、岐阜県等で構成）

○来場者数：１４８，５１５人

○事業の内容：

(1)国際陶磁器展美濃

世界４大コンペティションのひとつ。その規模と質の高さは、現代の世界を代表する国際コンペティションとなっており、会期中、入賞・入選作品を１４１点展示することにより、多くの来場者へ陶磁器の魅力を訴求した。

(2)主な産業・地域・文化振興事業

①産業振興コンペティション

国内外の飲食店やレストランと美濃焼商社・メーカーが一体となり、飲食店の料理が引き立つ「理想の器」を制作。会期中には、会場内に展示を行い、来場者による投票も行った。

②和食と美濃焼

ミシュランの一つ星シェフが監修した和食を地元の窯元の器で提供した。

③アール・ブリュット美濃展

美濃焼の産地で生活する、心身障がい者が制作したやきもの、絵画、書などさまざまな素材を使った作品を展示。会場内にて販売も行った。

④セラミックコレクション

陶磁器とファッションの融合をテーマに、美濃焼からインスピレーションを得た衣装及びアクセサリーを身に纏い、陶芸家によるパフォーマンスを取り込んだ新感覚のファッションショーを実施。

⑤お土産開発

地域の食材を使用した特産品や伝統料理を美濃焼とコラボレーションし、３市それぞれ地域を活性化する新たなお土産を開発し、スタンプラリーの景品として使用したほか、会場内ショップにおいて販売した。

（前回の成果）

フェスティバル全体としては、天候等の影響により前回よりも来場者数は減少したが、多治見市、瑞浪市、土岐市及び可児市の小中学生の招待や、４市７館の美術館等を巡るスタンプラリーの実施など新たな取組みにも好評をいただくことができた。

○各事業の成果

(1)国際陶磁器展美濃

６０の国と地域の１，３３７人から２，４６６点が出品された。うち、約６割が海外からの応募となっており、６０ヶ国・地域からの応募も過去最多。世界を代表するコンペティションとして成長を続けることができた。

(2)主な産業・地域振興事業

①産業振興コンペティション

飲食店と美濃焼メーカー・商社の各１社が連携し、２３点の器を制作。４，０３２名が投票に参加した。来場者アンケートでも良い評価をいただいた（２４％の回答者が一番よいイベント（１０選択肢中）と評価。）

②和食と美濃焼

１，０３４名の来客があり、３，９０６，７６０円分の作品の売上

げがあった。

③アール・ブリュット美濃展

東濃地方にとどまらず、岐阜県内から多くの参加者が作品の制作に参加し、期間中は前回よりも多い９，７２０名の来場者に見ていただくことができた。

④セラミックコレクション

若手陶芸家４名による作陶実演パフォーマンスとあわせて、ファッションカレッジの生徒が織部、志野等をテーマにデザインした衣装６０点の発表と入賞作品８点を披露。約７００名が来場した。

⑤お土産開発

「雲とミートボールカレー」(多治見市)、「お茶とたっぷり碗セット」（瑞浪市)、「窯ぐらし」（土岐市）の３種類のお土産を開発した。

２　事業の評価と課題

（事業の評価）

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
（評価） ○	陶磁器をテーマとした、世界最大級のイベントとして成長を続けており、美濃焼産業の発展、陶磁器文化の振興に大きな役割を果たしている。地元４市が連携して実施するイベントであり、県の支援も妥当である。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
（評価） ○	美濃焼、美濃焼産地のＰＲや販路開拓の有効な場となっている。また、特に地域の住民が、世界から応募された陶磁器の作品に身近で触れることができる機会となっている点からも有効的なイベントであると言える。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
（評価） ○	以前は２か月であった開催期間を前々回から３８日間とし、短期間にイベントを集中して実施することにより、効率化を図っている。長期間実施した際と比較して来場者数は遜色なく、効率的な集客も実現できている。

（今後の課題）

来場者数の伸びは認められるものの、目標としている２０万人には届かない状態が続いている。また、来場者の９割は東海３県に限られているため、遠方からの集客も一つの課題となっている。 また、令和３年度に開催する第１２回のフェスティバルは、コロナ禍の中での開催となるため、その感染防止対策に万全を期すのはもちろんのこと、大幅な来場者減が予想される中、この影響への対応も課題である。

（次年度の方向性）

地元の開催意識の高いイベントであり、県としても今後も陶磁器産業・産地の活性化のため、引き続き支援していく。

（他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果）

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果　など	